

2013 年度 生薬学 2 実習

実施日：2013 年 7 月 13 日（土）

場所：高槻市 大阪薬科大学

担当者：芝野真喜雄 准教授

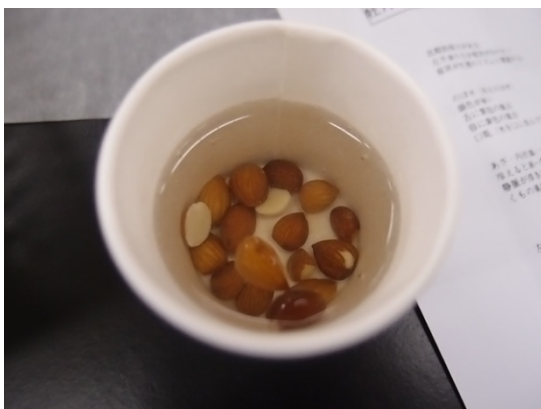
対象：関西大学化学生命工学部 「生薬学 2」履修者の中の実習希望者および
医薬品工学研究室の希望者

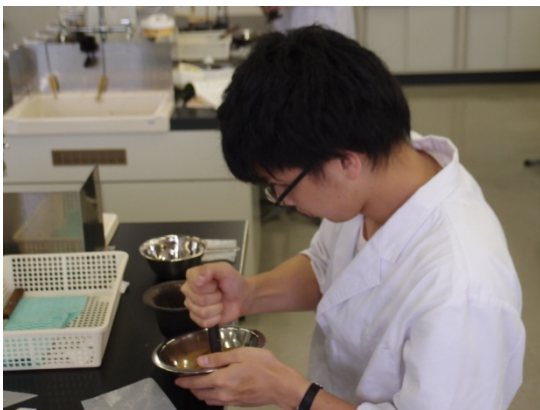
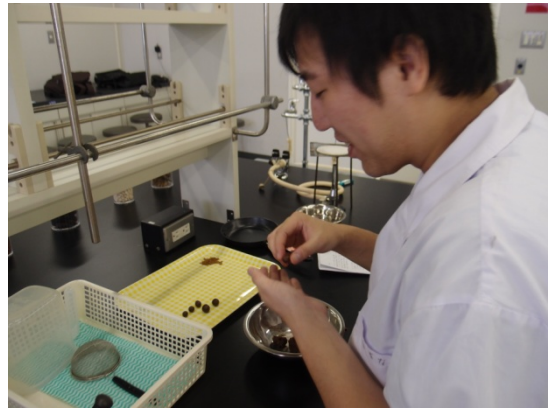
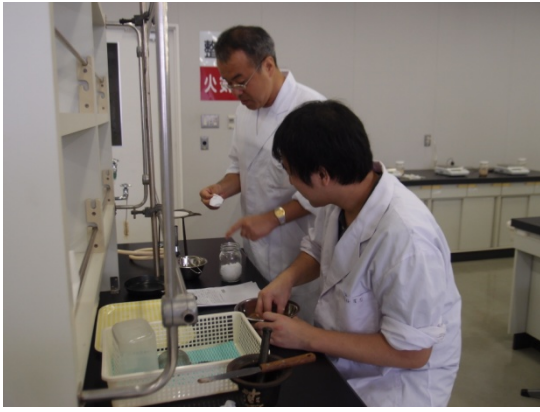
大阪薬科大学の薬用植物園にて芝野真喜雄 准教授の案内で夏の薬用植物園を見学しました。「生薬学 2」の講義でも取り上げられた様々な漢方薬の原料となる生薬だけでなく、西洋の生薬も含め、生きたままの薬用植物を観察し、説明を受け、可食のものは味見もできました。日光を遮ったところで赤い実をつけた薬用人参（オタネニンジン）の実を食べるなど他では体験できない機会となりました。春ウコンとウコンの違いを葉の裏側のうぶ毛の手触りで確認するなど、視覚、味覚、嗅覚、触覚で生きた薬用植物を感じ取ることができました。開花期の薬用植物がとても多く、目にも鮮やかでした。



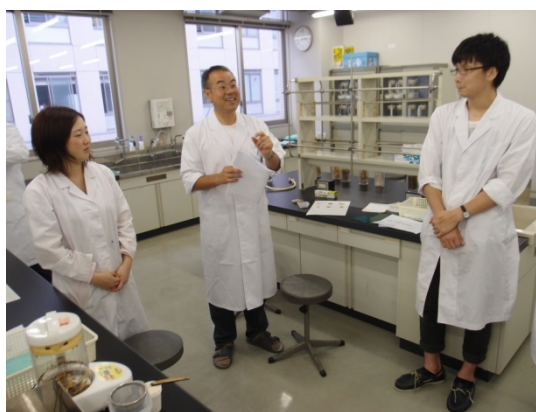


学生食堂での昼食後に学生実習室で漢方薬の作製を体験しました。はじめは桂枝茯苓丸という丸剤を作りました。桃仁を熱湯に浸して皮を向き、フライパンで加熱して水気を飛ばし、乾燥させました。鉄乳鉢という普段の実験では見たことのない乳鉢で粉末にし、他の生薬も投入してさらに粉々にしました。次にハチミツを鍋にとり、これも弱火で温めて水分を飛ばした後、ボール内で生薬の粉末と練り合わせ、粘土状にしてから 20 粒の丸剤に成形しました。仕上げの桂皮粉末でまぶされた桂枝茯苓丸は和菓子のようなでした。



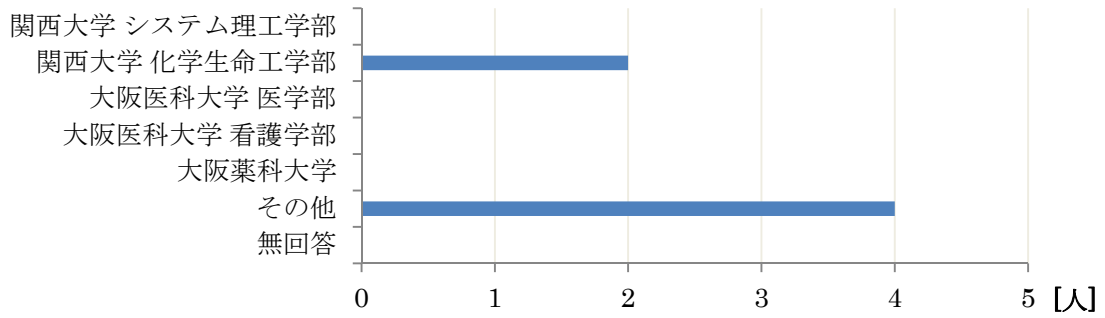


後半は各種の生薬を量りとり、煎じ器で補中益気湯を煎じました。その待ち時間に生薬の鑑定試験も行いました。一般に販売されている漢方薬は顆粒剤で水で流し込むように飲み込むため、あまり美味しいものではありませんが、生薬から煎じた補中益気湯は苦味と甘みが合わさり美味しく感じました。抗癌剤治療で体力の衰えた患者に処方されることがあるそうです。鑑定試験では、何種類の生薬が含まれるのか、それが何の生薬かの同定と、その構成から漢方薬名を当てるというのもでしたが、似たような色合いの生薬の刻みもあり、難しかったです。午前から午後 4:00 までの長時間の実習でしたが貴重な体験をすることができました。長時間の実習を担当して下さった芝野先生に感謝致します。



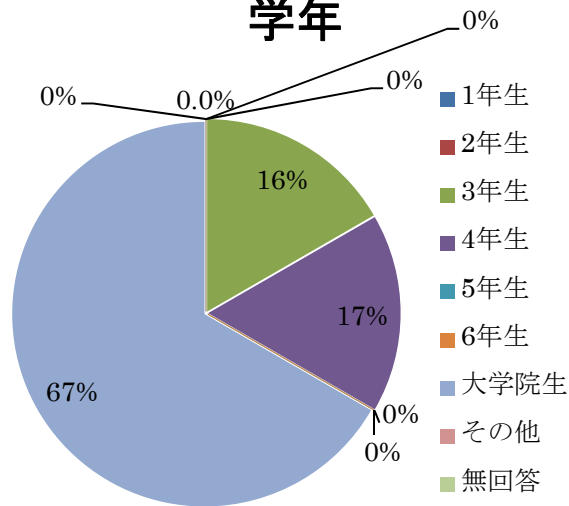
2013 年度 生薬学 2 実習アンケート

所属大学・学部

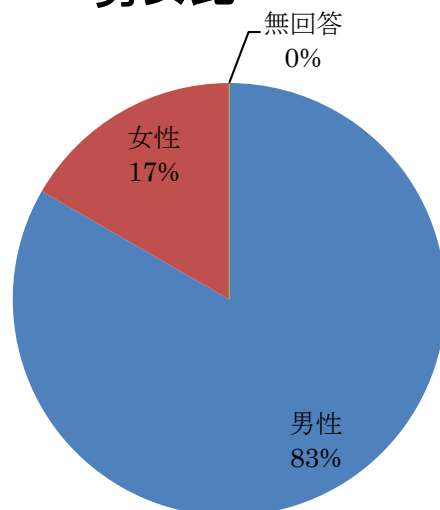


*その他：関西大学 大学院 理工学研究科

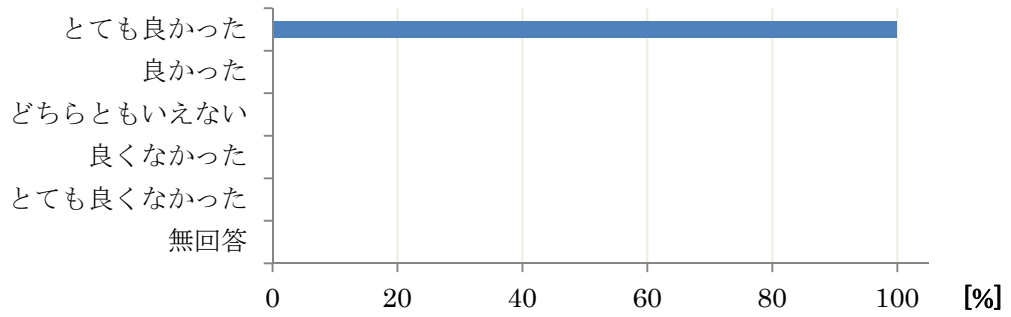
学年



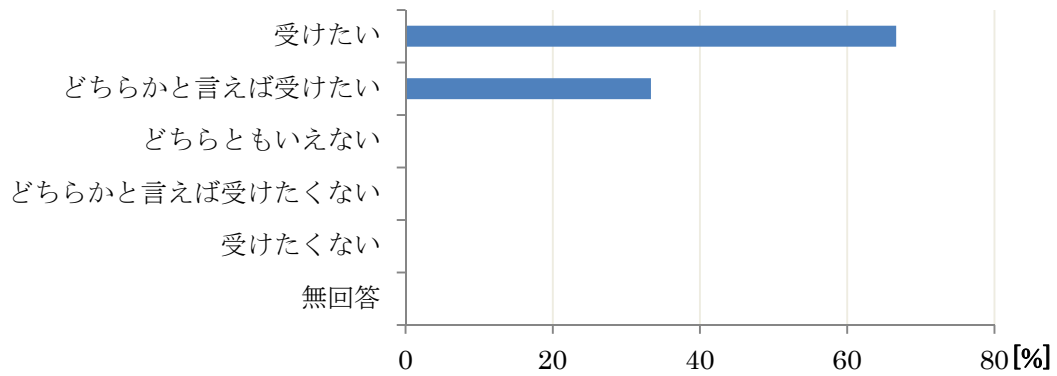
男女比



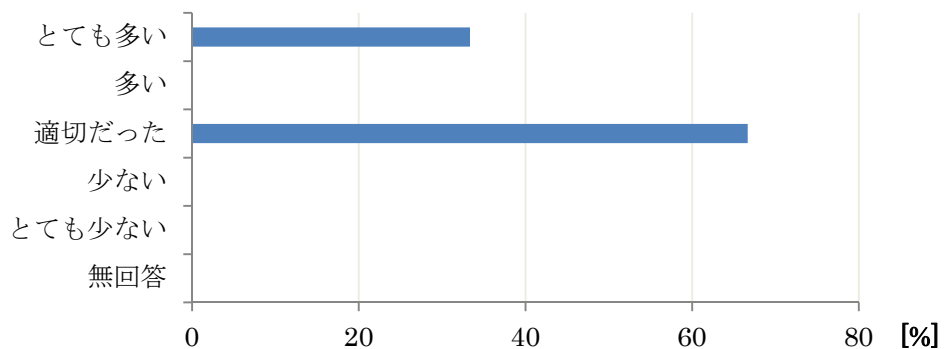
今回の実習はどうでしたか？



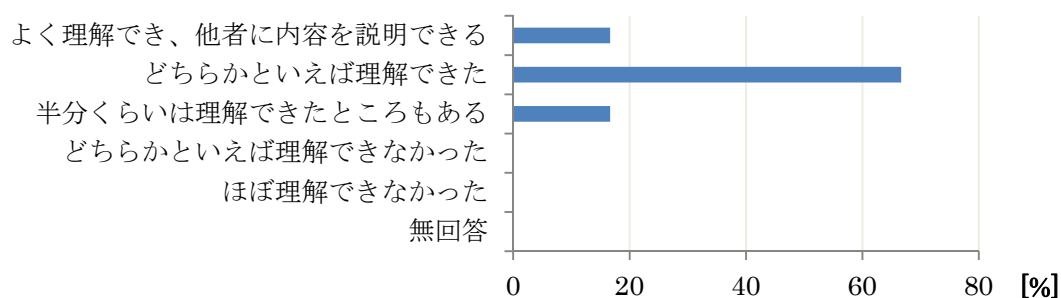
このような実習のある授業を また受けてみたいですか？



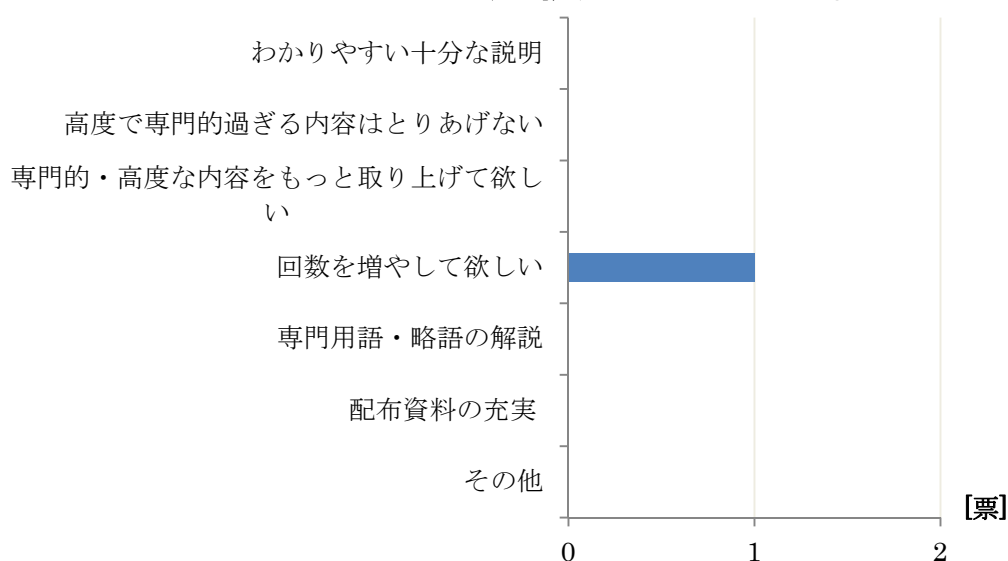
今回の実習の情報量は適切でしたか？



今回の実習の内容は理解できましたか？



今後の実習で要望があればあてはまるもの全てを選択して下さい。



今回の実習で何が一番印象に残りましたか？

- ・ 生薬の基礎知識、植物園見学
- ・ 桂枝茯苓丸を作るのが楽しかったです。
- ・ 生薬の鑑定で、似たような形状と香りで生薬の判別が難しかったです。
- ・ 桂枝茯苓丸の作成
- ・ 桂枝茯苓丸を実際に作ったこと
- ・ 桂枝茯苓丸の作製

感想・質問などがあればお書きください。

- ・ 本日は、ありがとうございました。知っているものから知らないものまで、様々な植物を見せて頂き、とても楽しかったです。様々な植物を食べることが出来、とても貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・ 授業などで話を聞くだけでなく、実際に体験することで、非常に有意義なものでした。
- ・ 漢方の作成もそうですが、植物園を見るのも楽しかったです。ただ少し暑かったのもう少し早めの時間にやってもいいのではと感じました。
- ・ 植物園で様々な植物を見学でき、また味や臭いなども体験でき非常に良かったです。
- ・ 非常に有意義に実験を行なうことが出来、よかったです。